

青木茂建築工房

2012年戦略 「集合住宅の再生」

「リファインディング建築」という名称でビルや公共施設などを再生を手掛ける青木茂建築工房(東京都渋谷区)。これまで70棟ほどの再生プロジェクトを手掛けてきた青木茂代表はさらに普及を目指したいと話す。



青木茂代表

環境負荷の軽減については東京大学、首都大学東京、東京理科大学の3校によって同氏が設計した再生物件のCO₂発生

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。環境負荷の軽減については東京大学、首都大学東京、東京理科大学の3校によって同氏が設計した再生物件のCO₂発生

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。環境負荷の軽減については東京大学、首都大学東京、東京理科大学の3校によって同氏が設計した再生物件のCO₂発生

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。環境負荷の軽減については東京大学、首都大学東京、東京理科大学の3校によって同氏が設計した再生物件のCO₂発生

一棟まるごと資産化再生の普及を

CO₂発生量、建て替えの84%減

青木氏が手掛けるリファインディング建築とは、ビル、マンションなどの集合住宅や施設の躯体をできるだけ限り再利用し一棟まるごと再生するものだ。特に「環境負荷の軽減」、「耐震性能の向上」、「新しい住まい

手にある空間作りとデザイン性」、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。

量を調査したところ、建物にあって空間作りとデザイン性、「資産価値アップ」といった点をコンセプトにした再生を行う。

躯体を解体せず劣化を補修して再利用します。新築の場合は、まず山から石灰を取りセメント工場へ持っていく、そのセメントはコンクリート工場で使われ、輸送して現場へ届く。鉄筋は海外から輸入されます。再生ではこれらの

躯体を解体せず劣化を補修して再利用します。新築の場合は、まず山から石灰を取りセメント工場へ持っていく、そのセメントはコンクリート工場で使われ、輸送して現場へ届く。鉄筋は海外から輸入されます。再生ではこれらの

躯体を解体せず劣化を補修して再利用します。新築の場合は、まず山から石灰を取りセメント工場へ持っていく、そのセメントはコンクリート工場で使われ、輸送して現場へ届く。鉄筋は海外から輸入されます。再生ではこれらの

【会社概要】

本社所在地 東京都渋谷区
設立 1977年
事業 設計事務所、集合住宅等の再生
主宰 青木茂